プレスリリース
2015 年 10 月

秋のアーティスト・イン・レジデンス展覧会 2015

「航行と軌跡」

青森公立大学国際芸術センター青森
2015 年 10 月 24 日（土）－12 月 13 日（日）10：00－18：00　会期中無休／入場無料

＜参加アーティスト＞
加茂昂（かも・あきら）
木村充伯（きむら・みつのり）
ロ・イチュン（LO Yi Chun）
ノエミ・ニーデルハウザー（Noemi NIEDERHAUSER）

加茂昂《まなざしを手向ける》壁面に油彩、2014 年

私達が美術館などで見ている美術作品は、完成した形として私達の目の前に現れています。しかし、作品が生み出される過程に思いを馳せてみると、アーティストによる長い時間をかけた思考や習作を経て生み出されていることに気づくでしょう。つまり、作品とは制作の過程＝航行とその軌跡が形になったものと言えます。また、作品は完成してから様々な国や地域の展覧会で展示され、物理的な航行（移動）を経ることとなります。また作品を観た人々が、その後作品の記憶を思い出したり反芻したりすることで、作品は人々の暮らしや人生に寄り添いながら精神的な航行を続けていくかもしれません。

本展では、「生き延びる」ことと「絵画」を同義とする独自の解釈のもと、絵画作品を発表する加茂昂、油絵具で体温を感じさせるような彫刻を制作する木村充伯、バナナの皮をつなぎ合わせてすだれのように天井から吊るし、社会的、政治的な題材を元にした光景を描くロ・イチュン、土地の歴史や文化財を調査し、そこから物語を紡いで映像や彫刻で表現するノエミ・ニーデルハウザーという、公募で選ばれた国内外 4 名のアーティストが新作を発表します。

4 名のアーティストは 9 月上旬から青森での滞在制作を始めています。4 名の作品では、必ずしも青森のモチーフが用いられるとは限りません。しかし、それぞれの故郷から遠く離れ、八甲田山麓で日々寝起きし、青森の食材で料理をするという青森での暮らしは、目に見える形でなくとも影響を与えています。滞在制作を経て生み出される作品から、アーティストが青森で体験した航行と軌跡を感じていただければ幸いです。

※会期中はアーティストによる関連イベントを多数開催いたします。詳しくはチラシをご覧ください。

＜展覧会概要＞

タ イ ト ル：秋のアーティスト・イン・レジデンス展覧会2015「航行と軌跡」
展 覧 会 会 期：2015 年 10 月 24 日（土）－12 月 13 日（日）10：00－18：00／無休
入　館　料：無料
会　　場：青森公立大学国際芸術センター青森　展示棟ギャラリーA、B
主　　催：青森公立大学国際芸術センター青森
協　　力：株式会社工藤パン、青森市教育委員会文化財課、ナッティーババリアン MH、株式会社元木商店、青森市小牧野遺跡保護センター、AIRS、ACAC 学生サポーター、青森公立大学芸術サークル
助　　成：平成 27 年度文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業

＜お問合せ＞

青森公立大学国際芸術センター青森　　〒030－0134　青森市合子沢字山崎 152－6
TEL:017-764-5200　FAX:017-764-5201　MAIL: acac－1@acac－aomori.jp
URL: http://acac－aomori.jp/　　担当学芸員：近藤由紀

＜参加アーティスト＞

加茂昂（かも・あきら）

《世界を新しく美しいと思う。》油彩、キャンバス、2015 年

加茂は、絵画を 1 点壁に掛けるのではなく、何点かの絵画を組み合わせた作品を発表しています。作品のモチーフには雪山が多く用いられますが、加茂が表す雪山は現代社会の比喩と言えます。雪山と共に描かれる登山者の姿は、現代を生きる私達の姿に重ねることも出来るでしょう。本展では過去の作品を交え、震災後から始めた「絵画」と「生き延びる」というテーマによる作品群を発表します。

1982 年　東京都生まれ
2010 年　東京藝術大学大学院美術研究家絵画専攻修了

＜近年の主な展覧会＞
2015 年　「VOCA 展 2015」上野の森美術館、東京
2014 年　「Wall Art Festival 2014」アシュラムスクール、インド
2014 年　「対馬アートファンタジア 2014」飯束土産店、長崎

木村充伯（きむら・みつのり）

《眠る犬》板に油絵具、2013 年、撮影：タン・ルイ

木村は主に油絵具を素材に動物をモチーフとした彫刻作品を制作しています。油絵具は絵画を描くための画材ですが、彫刻に使うと時間が経つにつれて油が台座の木に染み出してきます。更に油絵具特有の柔らかそうな質感と相まって、作品はまるで体温を持っているようにも見える不思議な存在感があります。本展では、油絵具の彫刻に加え木彫の作品を発表します。

1983 年　静岡県生まれ
2007 年　名古屋造形芸術大学大学院環境造形研究修了

＜近年の主な展覧会＞
2014 年　「Above the horizon」ケンジタキギャラリー名古屋、愛知
「ミニマル・コントラスト」SENSUS – Luoghi per l'Arte Contemporanea、イタリア
2013 年　「3rd Exhibition AGAIN – ST Dependent Sculpture－彫刻を支えるものは何か－」東京藝術大学絵画棟 1 階アートスペース 1、東京

ロ・イチュン（LO Yi Chun）

ロは近年、 バナナの皮を干して乾燥させ、それをつないですだれのように天井から吊るし、空間的に表現する作品を続けて発表しています。バナナの皮を使うのは決して奇をてらってのことではなく、ロが近年関心を寄せるバナナの国際取引や物流といったグローバル社会での様々な出来事をテーマにしているためです。ロの作品はバナナを入口に、農業や貿易、そして海外で生産された食物を当たり前に食べる私達の生活について考えさせます。

《Banana Justice – The Drama of Global Trades and Riots（バナナ・ジャスティス－国際貿易と暴動のドラマ）》乾燥させたバナナの皮、2014 年

1985 年　台湾生まれ
2010 年　国立台湾芸術大学修了

＜近年の主な展覧会＞
2014 年　「バナナ・ジャスティス－国際貿易と暴動のドラマ」現代芸術館、アメリカ
2013 年　「芭娜娜・バナナ・Saping」BankArt Studio NYK、神奈川
2009 年　「ボレロパラダイス－記憶の肖像」パイプミュージック＆アートセンター、台湾

ノエミ・ニーデルハウザー（Noemi NIEDERHAUSER）

ニーデルハウザーは歴史、科学、民俗学を手掛かりに地域を調査し、それをもとに映像や彫刻、写真などを用いてファンタジーの物語世界へ誘い込むような作品を制作します。本展では三内丸山遺跡の六本柱をモチーフに作品を制作します。六本柱はその用途や形がどのようなものだったか専門家の間でも意見が分かれるそうですが、ニーデルハウザーの作品は、自由に想像することの楽しさや可能性を示すようなものとなるでしょう。

《But are those fruits ever picked – up?（けれど、その果物はそもそも収穫されるのだろうか？）》ビデオ、ミクストメディアインスタレーション、2015 年

1984 年　スイス生まれ
2014 年　セントラル・セント・マーティンズ・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン（ロンドン芸術大学）修了

＜近年の主な展覧会＞
2015 年　「ノエミ・ニーデルハウザー展」チャバ・イェルマニ・ギャラリー、ベルギー
2015 年　「とても良い苦痛」SNETHA ギャラリー、ギリシャ
2015 年　「私の兄は緑の鸚鵡」ヴィクトリア＆アルバート美術館、イギリス